

平成29年度 第2回宝塚市総合教育会議

- 1 日時 平成29年（2017年）12月6日（水）18：30～19：40
- 2 場所 宝塚市役所3階 特別会議室
- 3 出席者 （構成員）中川市長、須貝教育長、井上教育委員、川名教育委員、森教育委員

（事務局）教育委員会事務局理事、企画経営部長、行財政改革担当部長、管理部長、学校教育部長、社会教育部長、政策室長、管理室長、学校教育室長、幼児教育担当次長、生涯学習室長、政策推進課長、政策推進担当課長、教育企画課長、学校教育課長、社会教育課長、政策推進課係長、教育企画課係長

4 内容

■開会

■中川市長 挨拶

皆さん、こんばんは。お忙しい中、総合教育会議にご出席いただき、ありがとうございます。この総合教育会議ですが、教育委員会と市長部局が地域の教育課題やあるべき姿を共有し、連携してより良い教育行政を推進していくために開催しています。さまざまな課題がありますので、この総合教育会議におきまして忌憚のないご意見を頂戴しまして、今後の教育行政にしっかり生かしていきたいと思っております。

現在新年度の予算が議論されており、本日は特に教育予算につきましてご意見を頂戴したいと思いますので、よろしく願いいたします。

■傍聴

この会議は、原則公開とすることとしています。本日の議題は予算関連ということで、特に非公開にする理由もないと思われまますので、公開にしてもよろしいでしょ

うか。

- 全委員 はい。
- 中川市長 それでは、公開とさせていただきます。本日の傍聴者はありますか。
- 事務局 本日は3名の希望者がいらっしゃいます。
- 中川市長 わかりました。どうぞお入りください。

(傍聴者入室)

- 中川市長 次第により会議を進めてまいります。

■ 議事

まず、議題1の平成30年度予算編成に向けての意見交換会について、事務局から説明をお願いします。

議題1 平成30年度予算編成に向けての意見交換について

(資料1に基づき、政策推進課長が説明)

- 中川市長 事務局からの説明が終わりました。それでは、ただいまの議題につきまして、意見交換をお願いします。
- 事務局 補足説明ですが、現在、実施計画の市長査定を行っている最中ですが、その資料についてはまだ内部資料ということでお出しすることができません。平成28年度決算を参考にして、平成30年度予算に向けて、どういう形で予算編成を行っていくかというところで議論いただければというふうに考えております。
- 中川市長 予算というのは、意気込みというか、やはりこういうものをしっかり軸にしてやっていくという、そういうものも含まれておりますので、ここはどうなっているのかとか、そういうことでも結構です。

○川名委員 よろしいですか。

○中川市長 どうぞ。

○川名委員 要望するしかないわけですが、何ととっても教育では、私たちは重い事案を抱えておりますので、二度とあのようなことを起こさないように再発防止に向けてきちんと予算をつけ、子どもたちや市民に安心していただかなければなりません。ですので、再発防止策に対して予算をつけてほしいというのが一番の要望です。いろいろ同じようなことを抱えている近隣の自治体の再発防止策はどのようなものがあるのかということは、恐らく事務局の皆さんが既に情報を集めてくださっていると思います。それから、前の総合教育会議や教育委員会の会議でも話が出ているCAP、子どもへの暴力防止プログラム、これは多分事務局で調べてくださっていると思いますが、私も問い合わせをしましたら、1クラスにつき2時間で3万円プラス消費税の費用が掛かるそうです。いつ受けるのが良いかと聞きましたところ、小学校の3年生か4年生で一度は必ずというお返事でした。3年生、4年生、どのぐらいクラスがありますか。

○事務局 小学校は66クラスになります。

○川名委員 1学年で66クラスですか。

○事務局 24の小学校を合わせてです。

○川名委員 そうすると予算としては3万円×66クラスですよね。消費税もあります。その予算は是非確保していただきたいと思います。中学校でも受けることができれば良いといいますが、とりあえず小学校の高学年になる前に1回は必ず受けることが望ましいということですから、その予算確保をお願いしたいと思います。2時間で3人の担当者が来て、子どもたちにいじめられている側の気持ちや、いじ

めているとこういう気持ちになるということ、きちんと行ってくださるので、近隣のいろいろな自治体でも実施しているわけです。地元のノウハウを持った人たちのことを活用して、目に見える形で何か新しいことをしないと、なかなか安心していただけないと思いますので、再発防止に向けてやはり一番にやらなければならないことであると思います。

○中川市長　この件についてどのように考えているのか、事務局からお願いします。

○事務局　CAPについては、来年度行う方向では考えております。管理職の中でもCAPを知らない者もおりますので、まず来年度はCAPについての管理職研修を行って、それを各学校で広げていこうというふうに考えています。

○川名委員　それは大人についてです。大人ではなく、子どもに対してしてもらいたいと思います。

○事務局　自殺予防プログラムといじめの事例研修を学校の中で進めながら、学校の居場所、子どもたちの居場所、安心・安全な居場所を確保しつつ、学級経営や学校経営にも力を入れていくという二本立てで考えていましたが、CAPについて、子どもがそれを受けて体感し、命の大切さや自分の権利、相手の権利というものをきちんと認識できる場をつくっていかなければならないということ、を再認識しているところですので、何とか予算を確保できないかと感じています。

○川名委員　市長は熱意だと仰っていますが、熱意ですよ。

○中川市長　どうでしょうか、教育長。

○須貝教育長　この会議で前にCAPという話が出ていましたので、やらなければならない意識は持っておりました。ですが、今、田上部長が言いまし

たように、こちらでも調べたところ、金額的にかなりの費用もかかるということが分かりました。費用のことを先に言うと、じゃあ子どものごことはどうなるのだということをおっしゃるかもしれませんが、このCAPについてもとりあえずは今持っている予算の中で、先生や保護者等の大人に対して一度行い、それを受けて今後次年度に予算化していこうというのがCAPについての考えです。今後、3年生、4年生の中学年への実施の重要性も踏まえて考えていきます。

○中川市長 先ほど川名さんがおっしゃったように、先生の中でもCAPをまるで知らない先生もいますので、教師がまず分かってもらいつつ、同じく、3年生、4年生、66クラス×3万円の金額で、CAPに関しては予算を検討していただくということをお願いできますか。

○須貝教育長 わかりました。

○事務局 平成29年度、30年度は、CAP制度について、分からない先生方がたくさんいらっしゃるというふうに私は聞いていましたので、それについてはまず先生方あるいは管理職が、集中的に制度や効果を教える研修を実施するというのであれば僅かな金額で済みますので、教育委員会の予算の中で何とかできるだろうと思います。先ほど、川名委員が仰ったように、3年生、4年生については、両学年実施する必要があるのでしょうか。それとも、どちらかで良いということでしょうか。

○川名委員 どちらかで結構です。

○事務局 66クラス、3万円で合計200万円ほどですが、あと、諸経費も入れると250万円ほど必要になるかと思われます。そうすると、教育委員会の枠内予算では対応が難しいわけですから、枠内予算以

外で財源を捻出するという事について、財政当局は構わないという事によろしいですか。

○福永部長　　まだ実施計画の予算要求書が出ていないので、効果や内容等を聞かせていただいてからの判断になるかと思えます。

○事務局　　わかりました。ということは、市長が言われたように、現時点では出ていない要求を新たに出すということによろしいですか。

○中川市長　　出してください。枠内予算での対応や先生だけの対応であれば、それは再発防止ゼロということですが、熱意は全く感じられません。

○事務局　　念のため補足しますが、それ以外の再発防止策というものも種々行っています。

○中川市長　　プログラムやアンケート等、文部科学省から降りてきたものは、それはそれで当たり前に行ってもらえば良いのです。宝塚として、あのようなことがあった市として、自治体として、そういう文部科学省からのそのようなプログラムやアンケートだけでは済まないということはどう認識しているかという問題です。実施計画でもC A Pのことが全く上がってなかったのが私は少し驚きました。差し戻したわけですから、議論して出してください。

○事務局　　教職員に対しての研修と合わせて、3年生なり4年生に対してのC A Pの予算を合わせて要求するという事によろしいですか。

○中川市長　　それは教育委員会の中で議論して考えてください。C A Pに関しては、一応そういう方向で進めていきたいとは思っています。宝塚だからできる一番の取り組みではないかと思っています。

どうですか、森委員、今の話について。

○森委員　　今、事務局から言われた、まず、先生や管理職の方にC A Pの存在やC A Pのやり方を知っていただいて、それから子どもたちに実施

していくということであれば、それはそれで良いと思います。しかし、1年間で全部の学校で実施することは難しいと思われるので、3箇年計画ぐらいで実施していくという方向で検討するのも1つの方法ではないかと思います。私も若い時にCAPプログラムを一度受けたことがあります。費用が高いということと、それから当時は、CAPでいろいろ子どもたちが相談したことを学校に知らせないという風潮がありましたので、CAPの対応についてはいかななものかと思うこともありました。もう何十年前の話ですが。学校としても、CAPのやり方に対していかなものかという反省や課題を突き詰めていくことによって、CAPのやり方も変わってきたということなので、CAPで子どもたちがいろいろと言った悩み等を吸い上げて学校に知らせていく、そして一緒になって子どもたちを見守っていくという体制に変わってきているということですので、是非やっていただきたいと思っています。

○中川市長 井上委員はいかがですか。

○井上委員 CAPというのが、大体原則的には子どもの安全から始まっていますので、いじめをなくすという点では是非やっていただきたい。ただ、今言われたとおり、予算がかなり厳しい状況ですので、3万円というような費用であれば学校ではかなり負担になるかと思っています。ですので、PTAに協力を求めて、PTAからその3万円というお金を出していただいて実施したというようなことが過去にありました。

○中川市長 何年ぐらい前ですか。

○井上委員 8年か9年ぐらい前です。子どものためですので、保護者は費用を出すことについて嫌とは言いません。協力していただけると思いま

す。

○中川市長 やはりP T Aに負担を求めるよりも、きちんと市の施策として、教育委員会として、責任を持ってやるべきことではないかと思います。教育長、よろしいですか。

○須貝教育長 転落事故で子どもが1人亡くなりもう一周忌を迎えるわけですが、これについては、いじめかどうかというところも含めて現在調査中です。命の大切さについては、各学校において講師を招き、講義を受けて、子どもたちもどんどん命の大切さについて学んでいるところですよ。そのような命を大切にすることについての授業も、引き続き行っていきたいと思っています。C A Pについては、子どもを守る、自分を守るという点において必要なことですから、是非行っていきたい、また予算として上げていきたいというふうに思っていますので、宜しくお願いします。

○中川市長 再発防止について、他にご意見等ありますか。

○森委員 再発防止に向けて是非お願いしたいのが、初期対応というものがすごく大事だと思っていますので、危機管理チームというものをつくった方が良いのではないのでしょうか。本市にはS S Wという強みがあります。ところがS S Wは今、青少年センターの管轄になっていますので、その管轄では動きにくいという状況があります。S S Wを青少年センターの管轄から学校教育課の管轄に変えれば、いじめ問題が起こってもすぐに動けるようになりますので、是非管轄を変えていただきたいというのが私の意見です。

○中川市長 今の森委員の意見に対して、担当部どうですか。

○事務局 S S Wが直接動いていくという意味合いで言いますと、学校教育課が所管するのが適切かなというふうに思います。今、青少年センタ

一の中では、いろいろなところが合わさって、市全体の動きの中でどうしていくかというような会を持っています。その部分とどう分けていくかということもありますが、昨年から教育長からもその整理について指示されていますので、こちらとしても考えていますが、SSWの全部を学校教育ラインのほうに持ってくると、指導主事の仕事範囲が広くなり過ぎてしまい、現実的に動いていけるのかなという不安もあり、もう少し整理していかなければならないと思っております。

○中川市長 森委員、今の田上部長のお話いかがでしょうか。

○森委員 他の市で聞きましても、SSWというのは学校教育課に属しています。

○中川市長 本市も来年からそのようにできませんか。

○森委員 教育長からは、まだ実際にいじめが関わっているのかどうか分からないというような発言がありました。第三者委員会が立ち上がり、どのような報告や認定があるか分かりませんが、それよりも前に、やはり教育委員会として、市内でこれだけのことがあった訳ですから、再発防止を考えるのは当然だと思います。報告があり、それでもまだ足りないことは、そこに付け加えれば良い訳ですから、できることは何でもしないとイケないと思っています。そのような意味で言いますと、この件も、SSWの方々が十分力を発揮いただけるような環境にあるかということ、残念ながらそうではないということが分かりましたので、それを改善するにはどうしたら良いかということを見ると、やはり現場との距離を近くすることが一番良いと考えています。お金を掛けずにできることですから、是非前向きに検討していただきたいと思っています。

○須貝教育長　私自身もSSWについては、近くで情報を得ながら、一緒に動いて、学校と福祉を繋ぐ役目を果たすという意味ではもってこいだと思っています。先ほど、田上部長が言いましたように、今、青少年センターに置いている中でいろいろなケースがあり、毎月かなりの数のケース会議を行っています。それらに関わってもらっており、青少年センターに置いておかなければならないような状態があったため、置いているわけです。森委員のご意見もよく分かります。学校教育課に持ってきたならば、学校支援の先生方にも動いてもらいやすいですし、繋いでもらえますので。

○中川市長　では、学校教育課の方に移すという方向で議論していただけますか。

○須貝教育長　検討はさせていただきますが、今言っているケースがどの程度負担があるか検討が必要だと思います。

○中川市長　前向きに検討していただかないとそれが宿題で終わってしまうので、他市の状況も調べて、どのようになっているかということを中心に調べてもらえませんか。転落事故の件については、SSWも自分達は何もできなかったと非常にジレンマを感じたと思います。SSWや青少年センター等と協議して、子どもたちにとって一番良い形で組織を見直す方向で議論してください。先送りにしないようお願いいたします。

続いてどうでしょうか。

私からよろしいでしょうか。田上部長にはお伝えしましたが、水島広子さんという精神科医がいて、彼女は日本でも思春期外来の第一人者と言われており、先日、宝塚にご縁があつて講演してもらいましたが、彼女にまた講演をお願いできないかと思っています。本当に、生きるか自らの命を絶つかという時に生きようと思えるよう、

さまざまな子どもたちの心の闇の部分にしっかりと話ができる人です。

○川名委員 部活についてはやはり何か考えないといけないかなと思います。

○事務局 今年度もそうですが、部活動外部指導員の予算は県の補助を獲得し、まずそこでの対応を行ってくださいということをお願いしています。市単独で実施するのではなくて、県の補助の中で実施していただくというのがまず前提だと思います。

○中川市長 県の補助は何故とれないのですか。

○事務局 県下でも一定の予算の枠がありますので、宝塚に12名動員してくださいと言っても、なかなか全部認められないような状況です。

○中川市長 県に対する予算要求はきちんと行いましたか。

○事務局 要望はこれからです。県としても、予算を増やしていこうという方向なのですが、県の財政状態も厳しいようですので。

宝塚市の場合、全体で100クラブほどありますが、外部指導員は毎日来るわけではありません。外部指導員の割合も15%~20%ですから、私どもとしてはできるだけその割合を増やしていきたいと思っています。そうなれば、教職員の負担も軽減されますので、もちろん予算確保をお願いしたいのですが、やはり今非常に厳しい財政状況ですから。

○中川市長 それは分かりますが、県から補助を獲得する努力をお願いします。

○川名委員 文科省もついに教師の仕事を仕分けすると言っています。世界一長時間労働のブラックなこの日本の教師の状況を変えていかないといけないわけで、少しでも負担が減らせるところは減らして、一人一人の先生がもう少しきちんと子どもを見ていけるように変えていかなければなりません。こちらとしても考えていかなければなりません。

るので、せめて部活ぐらいは負担を軽減してあげてほしいと思います。来年度は無理としても是非前向きに検討をお願いします。

○中川市長 半分の人数でも良いので、どうにかならないものでしょうか。

○事務局 中央教育審議会の中間報告では、それらも含めて変えていかないといけないという報告がありましたから、我々はそこに期待して注視していきたいと思っています。それまでは細々とではありますが、市単独で実施したいところです。

○事務局 予算について切実なのは教育委員会だけではありません。上がってくる全ての予算要求の内容というのは、いずれの事業も非常に切実で優先性の高い事業だと思いますが、それを重々承知のうえ、私どもも一定の判断を下します。例えば、教育で一定部分を拡充しようとしたら、当然、その財政規律を保持するため、何かをやめないといけないというような現実があります。他の分で上がってきているものも非常に切実な内容ですので、そこは全体を見て、私どもで検討、判断し、最終的には市長が予算化するという流れになりますので、そこは慎重に検討していきたいと思っています。必要性は重々、承知しています。

○事務局 前回の総合教育会議の中でもご説明させていただきましたとおり、大変厳しい財政状況の中で全事務事業見直しを行ってきました。

その中で、私どもも教育委員会の事務に対して事務の精査等をお願いしましたが、先生が多忙で大変というのは宝塚だけのことではなく、全国的な社会問題となっているのは十分認識しています。S Wやスーパーティーチャー等については、児童、生徒に対する支援や先生の多忙を軽減するための支援など、いろいろな目的がありますが、担当部に他市との状況を調べてもらったところ、宝塚市と

他市とではかなり予算で大きな差がある状況です。

過去からずっと積み上げてきた中で、現在の必要性等も見ながら、取捨選択と言えばおかしいですが、その中で何が一番必要なのかとかいうものも時間をかけて見ていただきたいと思います。部活もその一つになろうかと思imasるので、全体を見た中で対応をお願いしたいというのが我々行革サイドの思いです。

○事務局 全体の中で見ていただきたいと思いますというのがあります。

○川名委員 仰っていることはよく分かります。私達としては、自分たちの熱意を言わなければなりませんので、最初から遠慮していたら何も実現しないわけですので言わせていただいた次第です。内容については今後精査する必要があると思っていますので、また皆さんで相談ということです。

○中川市長 再発防止策というのは、本当に大事です。部活も全部は無理かもしれませんが、せめて何人かは査定していきたいと思imas。

○須貝教育長 先ほどの話でも出ていましたが、先生方には本当に一生懸命に小学校、中学校の子どもたちのことを見ていただいています。クラスの学級経営が一番大事ですので、子どもたちが学校へ来て良かったな、楽しいなと所属感を持っていただける場所となれば一番良いなと思imasが、そうでない子どもたちもいるのが現実です。先生は、子どもが楽しいなという表情をしているから楽しいのかなと思imasが、内心、いろいろな悩みを抱えている子どももいるかもしれませぬ。そこで、Q-Uというのがありますので、それを子どもに受けさせるというのはどうかなと思imas。要は子どもたちの生活の満足度を調べる、そういう調査です。これは全国的にも広がっており、他市でも行っているところもあります。また、市内でも実施

している学校もあり、どのような調査かと言いますと、子どもたちがクラスに所属し満足感や帰属意識等を持っているか等が点数で表されます。

○川名委員 Q-Uを調べるアンケートということですか。

○須貝教育長 子どもたちに受けてもらい判定していきますが、それが表になります。見た目では分からないような満足度等が低い子どもたちがクラスにどれぐらいいるのかということが分かりますので、それを担任の先生が把握することによって、その子どもたちに目を当てられたり、指導が加えられたりともものすごく役立ちます。

○川名委員 それは再発防止にどう繋がるのでしょうか。

○須貝教育長 要は、子どもたちが心理的に悩んでいるとか、そういった目に見えないものに対して焦点を当て、学級経営の中に取り込みながら学校生活を安定させていくという学級経営に繋がるものと考えています。そういうところの見えない部分に対して学級をつくっていく点で、このようなものを活用してみてもどうかと思っています。いじめ等がないか、また子どもたちにどのような心の変化があったのか、全ての子どもに目を当てることは難しいため、このような調査を実施することが良いのではないかと部内では話をしていました。

○森委員 宝塚市では年度初めに心と体のアンケートを実施しています。それからこの間、教育委員会で提案されたいじめアンケート。これは、11月から実施し、学校教育課がそれを掌握されているわけです。この二つが今宝塚の中でアンケートとして存在し、子どもたちの心や声を聞き、吸い上げている中で、それにもう一つアンケートを行うという理解でよろしいのでしょうか。

○須貝教育長 アンケート結果によって、子どもたちの悩んでいる部分を学級の担

任が知り、学年が知ることによって、その子どもに焦点を当てて学級経営を行っていくということがこのアンケートの狙いです。

○川名委員 ということは、心と体のアンケートといじめアンケートでは補えない部分があるということなので理解すればよろしいでしょうか。

○須貝教育長 はい。多少重複する部分はあるかもしれませんが。

○中川市長 もう少し精査していただいた方が良いでしょうね。子どもたちはアンケートを年に3回も受けさせられることになります。そのようなアンケートは今までも行ってきたので、これ以上アンケートを増やすことが良いのかどうか。それに、それだけのお金を掛けることが良いのかどうか。今回のCAPとの兼ね合いも含めて、そのあたりは慎重に議論をお願いします。

それでは、その他いかがでしょうか。

○森委員 長尾中学校の体育館の新設とか、いろいろやっています。一つ気になっているのが、山手台小学校の環境のことです。実は山手台小学校というのは、建てられた当時流行っていたオープンスペースを取り入れたため、教室と廊下の仕切りがない造りとなっています。廊下には全部カーペットが敷かれており、そのカーペットも創立当時のままだと思います。昔はそういうものが流行っていたかもしれませんが、今はそれぞれのクラスに発達障がい疑われる子どもたちが6%ほどいます。その子どもたちが、廊下でガチャガチャしたり、目の前にいっぱい掲示物があると、それに注意がいかなくなってしまっていて、集中できないということにも繋がっています。そういった意味では山手台小学校の環境は、そのような子どもたちにとっては非常に学習がしづらい環境であると思います。

ですので、直ぐにとはいかないかもしれませんが、是非現場を見ていただいて、子どもたちの様子を他の学校と比べていただきたいと思います。そして、改築の予算等を是非つけていただきたいなと強く思っております。廊下については、他のところはPタイルと違ってカーペットではないので拭き掃除ができますが、山手台小学校はカーペットですので、掃除にも手間が掛かります。そのようなところを見ていただけたらと思っておりますので、どうかよろしく願います。

○井上委員 最近、全介助の児童が多くなっていますので、是非介助員の先生を増やしていただけないでしょうか。

障がいの度合いに合わせて、教育委員会からも養護学校に通学した方が子どものためになるということを強く指導していかないと、普通学校にいる先生たちの負担も増えます。是非介助員の増員をよろしく願います。少なくとも今以上でお願いしたいと思います。

○中川市長 介助員を増やしたいのはやまやまですが、放課後デイも含めてうなぎ登りに予算が膨れ上がっているのが現状です。私達も出来得る限り介助員は配置しているつもりですが、限界があります。養護学校に通学していただくという方法ではなく、受け入れながら予算が少しでも圧縮できるような手だてを教育委員会でも議論していただきたいと思います。

○事務局 先ほどの山手台小学校の件につきましては、その当時の流行りと言えれば言い過ぎかもしれませんが、その中でできたということは十分認識しています。増築棟がございまして、そちらのほうは既に廊下と教室とは区分するようにはしていますが、当初の部分については、今ご指摘いただいたような状況が残っていますので、その部分の改

修の必要性についても十分認識しているところです。

ただ、多くの建物が老朽化している中で子どもたちの安全確保ということを優先していきますと、その老朽改修工事に現在懸命に取り組んでいるところですので、ご理解いただきながら頂戴したご意見は今後の改修計画の中に組み込んでいきたいと思えます。

○中川市長 もうすぐ英語教育が始まりますが、教育委員会としてどのように考えていますか。

○須貝教育長 外国語活動が3、4年生で来年度から、外国科が5、6年生で平成32年度から正式にスタートするわけですが、その準備として研修等も考えています。

○事務局 外国語活動については、もう来年度から始まるということで強く認識しております。今年度は研修の回数を増やしていくということも勿論ありますが、来年度、3年生、4年生、5年生、6年生、みな15時間プラスの移行期間になりますので、15時間の授業をしなくてはなりません。教材についてももうすぐ文部科学省のほうから届きますので、3学期早々にそれを教材として使用した研修も今考えているところです。ただ、3、4年生の先生から英語を教えなければなりませんので、全教職員が英語を教えられる状態にならないといけないと思っておりますので、来年度から具体的にどういう中身でどういう回数でというのはまだ決めていませんが、全ての先生に研修を受けていただいて、実際に英語指導に困らないような形で進めていきたいというふうには考えております。現在でも学校ごとにそれぞれ外国語活動の校内研修を行い、スキルアップを図っているということも聞いておりますので、そのあたりの支援も行っていきたいと思っております。

それから授業時数を2年後には35時間増やさなければいけませんので、どういう形で進めていけば一番子どもたちの学力が向上するのか、子どもたちの負担がないのか、それから教職員の負担を軽減できるのか等を今部内でシミュレーションしながら検証しているところです。外国語についてはそのような形で進めていきたいと考えています。それから、ICT機器の活用等もありますので、そのあたりも考えていかなければならないと思っています

○井上委員 この15時間はどこから調整するのですか。

○事務局 この2年間につきましては、総合的な学習の70時間から取っても良いということになっていますので、そこを基本に15時間調整する形で考えています。

○井上委員 他市では夏休みの短縮を考えているところもあるようですが、そのような考えはどうか。

○事務局 夏休みや冬休み等の長期休業の短縮も検討の中に入れていきます。

○井上委員 早急に決めて、話していただいた方が良いと思いますが。

○事務局 周知期間も必要かと思しますので、来年度にはこういう形で、平成32年度を迎えるということをきちんと周知期間を設けて、本格実施に向けてスムーズに移行できたらというふうに考えています。

○中川市長 先生たちの中には不安に思っている方もいらっしゃると思いますので、先生たちの意見を聞いて、早目早目に進めていくべきだと思います。

○川名委員 まず事務局の方針をある程度説明していただいたうえで、議論をしなければならぬと思います。私達は、道德の評価はどうするのだろうか、英語はどうするのだろうかと思っていますが、一向に議論の俎上に上がってこず、早くも12月を迎え、一体どうなるのか

と気をもんでいるわけです。いろいろとご検討いただいていることは分かりましたので、そういうことは早目に報告や説明していただかないと、心配ばかり募ってしまいます。他市の情報をいろいろ聞くと、授業時間をこうして捻出するとか、英語教育の目標はこれだとか、いろいろあるわけで、我が宝塚はどうなっているのかと心配になります。全部決まっていなくても良いですから、こういう方針でやりたいと思っていることだけでも、会議の場できちんとご説明いただければ私達も一緒に考えますので、是非ギリギリになる前に報告をお願いします。

○須貝教育長　川名委員が仰ったことはよく理解していますし、当然教育委員会で進めて行かなければならないわけですから、事務局で方針を固めたうえで、各学校の先生方にお示しできればと思っております。

○中川市長　必ず実行してください。

時間もあっという間に過ぎてしまいましたが、その他気になること等はありますか。

先ほどの山手台小学校の件は是非お願いします。すぐには難しいかもしれませんが、アレルギーの子どもたちにとってマットが辛いという話も個別に聞いています。また、子どもたちがぱっと廊下に出てしまうことは建物の造りの問題ではないかもしれませんが、山手台小学校にはいろいろな課題があり先生方もご苦労されていると思いますので、お金を掛けずに少しでもできることがあれば、工夫して検討していただきたいと思います。

本日は予算ということで少し縛りがありましたが、いろんなご意見を頂戴できて本当に良かったと思います。

これだけ熱心に議論しようと言ってくくださる教育委員の皆さんがい

らっしゃるということは本当にありがたいことだと思っています。
私達はこれでもかというぐらい議論ができるものをしっかりと提案
して、そして情報も早目早目にきっちりとお知らせしていただきた
いと思います。

では他にご意見がなければ、これで総合教育会議を終わりたいと思
います。皆さん、お疲れ様でした。傍聴の方もお疲れ様でした。